

## 岡山のブドウ畑からの近況報告

サッポロワイン(株)岡山ワイナリー  
袖山政一

岡山県赤坂町の当社ワイナリー周辺のブドウ栽培、特にマスカット・オブ・アレキサンドリア(以下アレキと略します)について、見聞したことおよび近況を報告します。

県下では、ブドウの露地栽培(トンネル掛けが多い)と共に、古くからガラス温室による栽培が盛んであります。その温室はほとんどがアレキで、他にわずかにグローコールマンなどがあります。御存知のように、アレキはエジプト産の古い品種で、香が華やかであるので生食用に、またワイン用に世界中で広く栽培されています。本県では高級品種にするため、また黒痘病などの病気にかかりにくくする為に、温室で栽培されます。当ワイナリー周辺にも、アレキの温室がたくさんあり、私たちもその温室を借りて、栽培試験なども行っています。

アレキの剪定方法は、他の露地栽培品種同様に短梢剪定(山梨のような長梢剪定はほとんど見られません)で、大正時代に始められた単幹コンドル仕立てから、戦後多数の主枝を残すパレット整枝へと変遷し、大木仕立てが特徴であります。生食用高級ブドウを目標にした多くの農家では、大粒系品種であるので、特に整房(房の切り込み)および摘粒(粒間引き)をていねいに、時間をかけて行っています。無加温の温室では、5月の開花前から、整粒をして、円筒系のコンパクトな果房作りがなされています。開花後は、果粒が密着しすぎて玉割れしないように、摘粒作業が丹念に行われます。温室ではその他、摘芯灌水、消毒などの作業が続けられて、9月の収穫を迎えます。加温の温室の早い物は、5月から収穫されています。

醸造用を目標にした私たちの栽培試験は、その温室で整房および摘粒作業をいかに省略するかです。収量制限の為に整房は行いますが、房作りの切り込み作業を行わないと、自然に適度な花振いを起こし、摘粒作業が省けました。出来た果房は、円錐系で、生食用とは全く異なる品種のような形になりましたが、成分にはほとんど差がありませんでした。また当ワイナリーの付属農園では、各種の醸造用専用品種の試験栽培を行っています。私たちはアレキが雨に対して他の醸造用専用品種に比べて特別に弱いとは考えておりません。

当ワイナリーでは、9月から10月に周辺の農家から生食用アレキを購入して、ワインを仕込みます。発酵は特に低温で行うことに留意します。翌年の4月に瓶詰めして、岡山県を中心に限定販売しています。お陰様で、1989年ビンテージの今年の製品も、マスカット香の豊かな物となり、非常に好評でした。今後もこの岡山特産のアレキをいかに特

徴のある、良いワインにしていくかの試験研究を進めて行きたいと考えます。皆様の御指導をよろしくお願いします。

## 耐寒性品種 I K-567 の育成・栽培について

池田町ブドウ・ブドウ酒研究所

広瀬 秀司

北海道の東部に位置する十勝地方は年間降雨量700~1,000mmと国内の栽培地帯の中では小雨であるが、大陸性気候の特性から夏期高温、冬期極低温となる地帯であり、又、春期遅くまでオホーツク寒気団が停滞する。したがって欧州種の栽培を成功させるためには生育有効積算温度2,200~2,400℃の範囲である極早生種に限られる。しかし、これらの品種は冬期小降雪、極低温に耐える耐寒性因子を持ち合わせていないため、この地での欧州種栽培には冬期土中被覆することによって枝梢を生理乾燥凍害から防ぐ必要がある。大規模醸造用種栽培には整枝剪定技術を含め栽培管理の省力化が不可欠であり、当町では現在世界の野生ブドウで耐寒性因子を兼ね備えているといわれる道東の山ブドウに着目し交雑育種による耐寒性品種改良により、優良系統 I K 567 を作出した。

交雑方法は山ブドウの開花が欧州種より10日早いため、父本を山ブドウ、母本を欧州種として交雑種の世代更新及び戻し交雑を繰り返した。栽培種と野生原種の交雑においてはF<sub>1</sub>の状態では野生因子の導入率が高く、栽培形体として劣悪因子を伴って耐寒性因子が導入されるため、その因子を取り除くため戻し交雑を繰り返す必要がある。又、山ブドウの系統は挿木繁殖が容易でなく、したがって優良系統の増殖には組織培養により増殖を行い、後代検定を行っている。

育成された I K-567 は1975年山ブドウ♂× Seibel-13053 ♀ で作出したもので、その主な品種特性は以下の通りである。

萌芽期：4月28日(10ヶ年平均)、	開花期：6月30日、
熟期：10月10日、	花器形態：完全花、
着粒：密着、	果房重：130g、
	糖度：19度。

この品種の栽培は、すでに当町千代田地区の試験圃場に4ha植栽し、又、ブドウ生産農家へ栽培委託し、地域特性把握のため普及を開始した。又、その栽培整体は垣根方式(2.5m×2.0m)、10アールあたり200本の植栽密度で高姿コルドン方式で行っている。